

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	岡崎市立美合小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域とともに歩む美合の宝「生田蛍」の保護・PR活動

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 活動に至る経緯

今年で47年目を迎えたホタルの保護活動であるが、かつてない危機に見舞われた。6月2日の豪雨である。今年度は、夜の温度が低く、4年ぶりに行われた6月1日の「ホタル観賞会」でも、飛翔数は50匹あまりであった。昨年度の最大飛翔数は365匹、これからの飛翔が期待された矢先の出来事であった。2日以降、飛翔数は明らかに減少し、例年より10日あまり早い6月15日には飛翔が見られなくなった。ホタルを捕まえて産卵させ、幼虫を飼育するのが、ホタル飼育部の役目であり、10月の「ホタル放流会」では、多くの幼虫を放流するのであるが、それもできなくなった。また、4年生も同様に飼育活動を行う予定であったが、それもかなわなくなった。4年生は飼育活動から環境学習を通して保護活動を考えることにシフトし、ホタル飼育部の活動は、数少ない幼虫や餌となるカワニナの飼育に移行せざるを得なくなった。

また、地域住民や児童から標語を募集し、生田蛍に関する看板を作成する計画であったが、6月の豪雨を受け、今こそ地域と一体となって活動することで、ホタル保護活動を盛り上げないと、危機であると懸念した。

#### 2 活動・研究の目的

(児童) ホタル飼育部を中心として、危機的状況の中でも保護活動や餌となるカワニナの飼育を続けることで、「生田蛍は美合の宝」という心情をさらに高め、学区により愛着を感じる子供を育てる。

(地域) 学校と活動を共にすることで、生田蛍を守るのは、自分たちであるという心情を高める。

#### 3 活動内容

##### (1) 全校児童・地域住民と踊る「ホタル音頭」

5月の運動会では「ホタル音頭」を踊る。練習会には「生田ホタル保存会」から十名近くの方に来ていただき練習会を行った。この「ホタル音頭」は、昭和の時代には美合の駅前では夏祭りがあり、その場で盛大に行われた踊りである。運動会当日は、中学生や高校生も交じり、500名ほどで踊ることができた。



5月 雨天時の練習風景

##### (2) 「生田蛍保存会総会」および「ホタル観賞会」

今年度のホタルの飛翔は、5月8日に初観測された。その後、夜の温度が上がらず、例年のような観測はみられなかった。6月1日、「生田蛍保存会総会」と「ホタル観賞会」が行われた。この総会は、地域住民だけでなく、岡崎市の環境部、近隣のホタル保存会など関連する方も多く招いている。この場で、ホタル飼育部の子供たちは、自分たちの活動紹介や今年度の飛翔数の様子などを発表する。また、今年度の活動をどうしていくのか、さらに飛翔数を増やすためには学区は何かができるのかなど地域の方から質問が出たり、子供たちから地域への呼びかけをしたりする重要な場となっている。



生田蛍保存会総会で発表するホタル飼育部

この保存会総会后、「ホタル観賞会」へと出かける。校庭には、子供たちをはじめ保護者、地域住民だけでなく、支援をいただいている岡崎南ロータリークラブからも参加があり、総勢300名を超える人数で山綱川流域を歩いた。この日の飛翔数は56匹。これが、今年度最大の飛翔数となった。次の日6月2日、まさかの豪雨のため、多くのホタルが流されてしまい、飛翔数はこの日を境に激減した。

(3) 「生田蛍」保護の看板作成

今年度は、子供からホタルの標語を募集し、古くなった生田蛍保護の看板を数枚作り変える予定であった。しかし、6月の豪雨で生田蛍の危機であることを踏まえ、地域にも標語作成を依頼した。そして、児童のものはホタル飼育部、地域のものはPTA役員が選出し、最終決定を生田蛍保存会に依頼した。看板の設置場所は13か所。地域から次の8点、子供から次の5点が選ばれた。

- (地域)
- ・ 蛍のひかりは善意の輪であるあかし
  - ・ どの蛍もみんな大切な命
  - ・ 蛍が照らす美合の未来
  - ・ 清流に生田蛍と遊ぶ里
  - ・ 緑ときれいな川で輝く夜空に！
  - ・ 美合の愛の灯(ひ) ホタルの灯(ひ)
  - ・ ほんのすこしのやさしさを人も蛍も輝きを増す
  - ・ だれもがうっとり 守ろう！ふるさとの生田蛍
- (子供)
- ・ 昔からの友 蛍
  - ・ ホタルと川は宝物
  - ・ ほたるの光 ぼくらの希望
  - ・ 山綱川はホタルの名所
  - ・ ほたるはわたしたちのおともだち

これらを看板にいただき、11月に設置した。来年度も蛍の標語を子供たちから募集し、学校周辺あるいは校内に掲示していこうと考えている。



PTA役員による選考



13か所に設置したホタルの看板。生田蛍保存会、岡崎南ロータリークラブ、PTAの協力による

(4) 4年生ホタルの幼虫の飼育から環境学習へ移行して

毎年4年生では、ホタル飼育部が夏に育てたホタルの幼虫を「マイホタル活動」として観察し、3月のピオトープに放流している。しかし、今年度は豪雨のため、ホタルを思うように産卵させることができず、観察に十分な数を確保できなかった。また、非常に少ない数なので、何が何でも大きくして放流したい。それは、ホタル飼育部の使命とした。そこで、4年生はホタル保護を考えるための環境学習へと移行することになった。

自動車部品メーカーの協力を得て、環境保護について考えた。写真は「水の大切さ」の学習であるが、数回の講座を通して、子供たちは、自然環境を破壊しているのは自分たち人間であることを改めて実感し、自分たちにできることを考えた。児童Aは節電への取組を考え、学校中に節電を呼び掛けるステッカーを作った。校長室にも貼り、そのため校長は、3か所ある校長室の電灯を、普段は2か所のみ活用し、節電に努めることになった。児童Bは、トイレットペーパーの芯を活用し、教室に「エコリース」を作った。クリスマスにはエコツリーに発展した。また、宅配業者の協力を得て、子供たちのエコへの思いをはがきにいただいた。これらの活動は、来年度の6月に高年者センターで発表する予定である。



アイシン環境学習「大切な水」



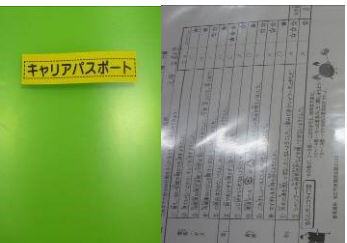
校長室にステッカーを貼る児童A



児童Bの考えたエコリース



エコへの思いは、はがきになりました



キャリアパスポートとして、全学年でホタルに関わるものを保存します

これらの環境学習に関わる4年生の記録は「キャリアパスポート」として、保存をしている。他の学年については、ホタルに関するものを中心に保存するようにした。

(5) ホタル飼育部の活動と地域と連携して行う「クリーンアップホタル川」「ホタル放流会」

来年度の飛翔を信じて、地域も学校も本気で活動している。ホタル飼育部では、山綱川の水質調査を行い、ホタルにとって棲みやすい水を考えている。また、地域とともに山綱川保全活動として行っている「クリーンアップホタル川」には、100名以上の参加がある。さらに、今年度の「ホタル放流会」では、餌となるカワニナを放流した。ホタルの幼虫は必ずや生息していると信じているからである。この放流会には岡保育園の園児も見に来る。このように継続されることを大切にしたい。

来年度以降は、ホタルの生息に詳しい人から、本校の保護活動が本当にこれでよいのか聞いたり、近隣でホタルの保護活動をしている河合中学校や「鳥川ホタル学校」とも連携していったりしようと計画である。「生田蛍は美合の宝」。危機をチャンスと捉えて、地域とともに歩む保護活動を継続していきたい。



クリーンアップホタル川



餌となるカワニナの放流会



山綱川水質調査